「主要食糧法」改悪のねらいと産直運動の役割

農民運動全国連合会（農民連）会長　長谷川敏郎さん

いまだに米の高値が続いています。価格はなぜ下がらないのか？　この先どうなっていくのか？　2月18日に開かれた「新婦人オンライン産直運動交流会」での農民連会長、長谷川敏郎さんの講演（要旨）を紹介します。

高市政権のもと、衆議院選挙での「自民圧勝」で今、日本の水田と米つぶしが進められようとしています。特別国会に提出される農業関係の法案のなかでも、最大の問題は「主要食糧法（※1）」の改悪です。

※1　主要食糧法…主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律、1995年に施行。米や麦の流通・価格安定を目的とした法律

なぜ消費者米価は下がらないのか？

なかなか米価が下がらない一方で、「お米は余っているはずでは？」という声もあります。実質的な増産分は、8兆円の補助金を出しました。お米に対しても、備蓄米放出で得た700億円の利益をはじめ、財源をつくって差額を補填すれば、消費者が買える価格まで米価を下げることは、十分に可能なのです。

「見せかけの過剰」による米価暴落の懸念

政府は農家に対しては、「米が余って価格暴落の恐れがある」と脅しをかけています。現在、政府の備蓄米の買い入れ入札が先延ばしにされていますが、これが始まると安値での落札や投げ売り、倒産が起きかねません。

これを危惧して、半数の県が今年の作付けを減らそうとしています。このままでは国産米は減り、アメリカ産米に占められたMA米（※2）を食べるという深刻な事態が迫っています。

※2　MA（ミニマムアクセス）米…WTO協定で「輸入機会の提供」に合意した。「輸入機会の義務」でないにもかかわらず、日本政府は「輸入義務」だと固執し、毎年77万㌧を無関税で輸入し続けている。

27年「米改革」のねらいとアメリカ産米依存

「主要食糧法」改悪による2027年「米改革」のねらいは、政府が主食の安定供給から完全に撤退することです。これには次の3つのポイントがあります。

生産調整規定の削除

1つは、「生産調整に関する規定の削除」です。法律から「生産調整」の言葉を削ることで、政府が需給と価格を安定させる法的根拠を失わせようとしています。

生産に応じた生産

2つめは、「需要に応じた生産」です。農家に対して、「米価格を維持するために必要だから応じなさい」と、生産調整や減反をやってきた結果、この30年間で価格が下がったのは米だけです（グラフ1）。

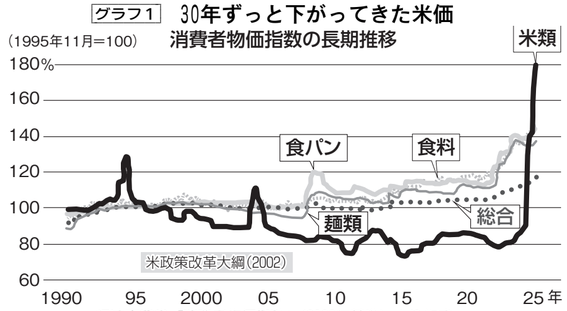
米価の下落は、日本の実質賃金の低下と見事に一致しています。〝米が高い〟のではなく、〝米が買えないほど賃金や年金が低い〟ことが問題です。

国産米備蓄ない国へ

3つめは、国産米の備蓄を持たない国になろうとしていることです。政府は「民間備蓄」を「民間備蓄」と呼び変え、数字上だけで管理しようとしています。民間業者は営業のための在庫ですから、いざという時に、国民を守る備蓄の役割は果たせません。

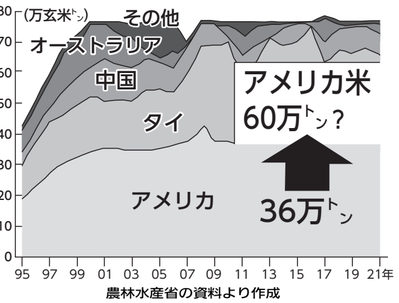
すでに国はMA米の枠内でアメリカ産米60万㌧に即時拡大することを約束しています（グラフ2）。外食や中食（弁当など）には、大量のアメリカ産米が使われています。高市政権がアメリカから高く評価される裏で、日本の主食が売り渡されているのです。

グラフ1　30年ずっと下がってきた米価
消費者物価指数の長期推移（1995年11月=100）



経済産業省「消費者物価指数」（2020年基準）より作成
参考「2025年5月29日『東洋経済』黒崎亜弓」

グラフ2　MA米のほとんどがアメリカ産米に？



農林水産省の資料より作成

「令和の百姓一揆」と産直運動の希望

基幹的農業従事者は25年間で半分以下の102万人にまで減り、農地も423万㌶へ大きく減っています。一方、輸入農産物は9兆円から13兆円へ大きく増えました。

農村の疲弊と分断、農村社会の破壊が進んでいます。そんな中、昨年、全国26都道府県で「令和の百姓一揆」が起きました。国民が国産食料を食べ続ける政治、農家への所得補償、食料の需給の混乱を二度と起こさないこと、この3点で一致したさまざまな人たちが集まって行動を起こしました。今年も3月20日に東京からスタートし、全国でやろうとしています。

私たちにとって大事なことは、米農家と農村つぶしに抗って、米を作り続ける農民を守ること。農民を守ることによって、私たちの食べ物を守るということだと思います。

「作って食べて」の新婦人との産直運動を大きく広げていくことが、新しい住民運動、国民運動を起こしていく大きなうねりになっていくと思います。農民連も一生懸命がんばります。

・長谷川氏の講演は新婦人中央本部のホームページより視聴できます。

令和の百姓一揆2026

3月29日（日）14時30分集会開始。東京・港区青山公園南地区。今後、全国各地でもおこなわれる。

←詳しくは

女性働く〈最終回〉

弱いものをさらに弱くする消費税・インボイス制度⑥

STOP！インボイス埼玉西部　フリーライター　安田　知代

「就職氷河期世代で個人事業主で生き残れると考えていましたが、それすら許されなくなる」「国から死ねと言われている気がする」「裏金議員たちの経費も細かく厳しくチェックしてほしい」……「インボイス制度を考えるフリーランスの会／STOP！インボイス」オンライン調査の自由記述欄に寄せられた声からの抜粋です。

調査への回答者数は、制度開始1カ月の2023年11月は約3千人、制度開始後初の確定申告後は約7千人、25年は約1万人とどんどん増加。「声をあげなければつぶされる」という苦悩と憤りの広がりが感じ取れます。

調査を重ねている「STOP！インボイス」は、フリーランスの若手クリエイターが中心となって21年末から活動する市民の会です。私が合流したきっかけは、23年の「増税もう無理!!　STOP！インボイス全国一揆」でした。それ以前は、制度の影響が予測できないまま「仕方がない」と後ろ向きでした。でも、若い人たちが創意工夫して政治を動かそうとする姿にも触れ、アラ還（60歳前後）の私も奮起しました。以後、実態調査や報告会の裏方、ロビー活動などに関わるようになり、一人ひとりが声をあげることの大切さを痛切に感じています。

声をあげる人とともに

インボイス制度に関するアンケートの結果報告会で説明する「STOP！インボイス」発起人の小泉なつみさん。数字は制度の廃止に賛同する声（1月20日）

振り返ると、シングルマザーの私がフリーランスで細々と暮らしを支えられたのは、インボイス制度などない時代だったからです。また、なんとかなった背景には、ひとり親家庭への公的支援や、保育園・学童クラブなどの存在がありました。それらは、多くの先輩たちが声をあげて働きかけてくれたおかげで実現されたものだと、あらためて思い至ります。

今、国内の政治状況も世界情勢も日に日に悪くなっていて、気持ちがくじけそうになります。でも、さまざまな社会問題に対してひるまず声をあげている人たちを見ると、勇気が湧いてきます。私も、声をあげ続けていきたいと思います。

今回で連載は終わりです。長年にわたって声をあげ、伝え、広げてきた新婦人に、深い敬意と感謝を。

ホットライン

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス　s-press@shinfujin.gr.jp へ

徳島　イラン攻撃やめよスタンディング

【県本部　角田恵美】「トランプ政権はイラン攻撃やめろ！」の緊急宣伝行動を徳島駅前で新婦人も参加する徳島憲法共同センターでおこないました。

雨の中スタンディング▲徳島

23人が参加。ミモザの花をマイクやジェンダーシールに飾り、ティッシュに国際女性デーの説明を添えて配りました。

高市自維政権は戦後日本国憲法のもとで培ってきた平和、民主主義を根本から破壊しかねない危険な政権であること、「戦争する国づくり」を加速させていること、アメリカとイスラエルのイラン攻撃やめて！命を守って！私たちは平和を願いますと訴えました。

新婦人が参加する2026年国際女性デー実行委員会が毎年とりくんでいます。

香川　元気の出る楽しい忙しい1日

【高松支部　大谷】3月8日は香川でたくさんの行動の呼びかけがあり、忙しい日でしたが、元気の出る楽しい1日でした。

10時から映画『女性の休日』上映会第1部（感想交流あり）、12時から国際女性デー実行委員会主催のスタンディング、13時からウィメンズマーチがかわ実行委員会主催のパレードと、若い人たちがいろいろな団体や個人に呼びかけて、SNSでも発信して実現しました。SNSを見て参加した人も。14時からは『女性の休日』上映会第2部（感想交流あり）でした。

忙しかった香川版「女性の休日」▲香川

石川　赤いもの身につけて宣伝行動

金沢で一番人通りの多い香林坊で▲石川

【県本部　飯森博子】3月8日、石川県知事選挙と金沢市長選挙当日。お昼の貴重な時間、赤い帽子やネッカチーフを身につけて、金沢で一番人通りの多い香林坊にて、国際女性デーの宣伝行動に……3・8国際女性デー　各地で……

【一関支部　田島敦子】「上映中の『女性の休日』を見て集まりましょう」を合言葉に国際女性デーのつどいを開きました。

「ママが過ちを正したんだよ」のセリフがカッコいいね。国会議員女性率46％は行動したからだよね。と元気な意見が続き、さらに、ジェンダーギャップ指数が日本118位なのは自分たちの意識が118位なんだと気づかせてくれました。

ジェンダーかるたにシール投票をし、語り合いました。やはり「介護、家事、子育て…ひとりで背負わなくていいんだね」が1位。初参加のゲストから、「食事は3回作るというしばりをやめて気持ちが明るくなった」という発言もありました。

愛知　10人でアピール　横断幕も

会員手づくりの横断幕▲愛知

【津島支部ひまわり班　早川かつみ】3月8日、国際女性デー。市内の交差点で、横断幕にミモザを飾り、宣伝しました。会員10人が赤いスカーフや上着を身に着けて通行人や車に向かってアピール。手を振ってくれる人や不思議そうに眺めて行く人も。この横断幕は会員が心を込めて作成したもの、好評でした。

岩手　『女性の休日』見て集まりましょう

ジェンダーかるたにシール投票▲岩手

神奈川　コーヒーブレイク　憲法語り合う

【鎌倉支部山崎班　高井久美子】班のコーヒーブレイクは、月1回60代～90代の仲間が気になる記事を中心に読んでおしゃべりをしています。

2月28日号4～5面「9条という『要石』をいまこそ力に」を読み、憲法9条は建築物の要石と同じで、これがなくなることで個人の尊厳、思想、良心の自由など人権の土台が崩れ去ると書かれていました。

あわせて鎌倉9条の会発行のミニパンフ「戦争をしないと決めた国日本の憲法を知ろう」を輪読。子どもの目線で解りやすい質問形式です。その集まりで寄せられた句。大軍拡一触即発原発列島

俳句も生まれた▲神奈川

秋田　音読ランチ小組　ゲストが入会

紙面を音読▲秋田

【横手支部】音読ランチ小組に、県大会に参加した会員が知り合いを誘って参加しました。2月14日号1～2面（一人でも安心して暮らせる住まいを）をみんなで音読し、おしゃべり。うれしいことにゲストが入会。少しずつ春がきています。